

## 第1回仙台市農業施策基本方針検討委員会 議事の概要

日時：令和8年3月17日（火）  
午後3時00分～午後4時45分  
場所：仙台市役所表小路仮庁舎経済局作業室

### 1. 出席者

委員 7名（相澤陽奈委員、伊藤房雄委員、萱場哲也委員、郷古雅春委員、  
佐藤利永委員、佐藤友佳委員、緩鹿泰子委員）

事務局 6名

傍聴 0名

### 2. 概要

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ

《農林部長》

#### 3. 委嘱状交付

仙台市農業施策基本方針検討委員会委員7名に委嘱状を交付

#### 4. 委員長選出

伊藤房雄委員を委員長に選出

#### 5. 議事

(1) 仙台市農業施策基本方針の見直しについて

資料1-1～1-3、参考資料1～3

《事務局説明》

事務局（農林企画課長）

資料1-1～1-3、参考資料1～3により説明

《質疑応答》

・質疑応答なし

(2) 現行の仙台市農業施策基本方針の振り返り及び農業者意見について

資料2、参考資料4～6

《事務局説明》

事務局（農林企画課長）

資料2、参考資料4～6により説明

## 《質疑応答》

### 郷古委員（宮城大学特任教授）

- ・農村の維持のためには営農が行われ、管理がきちんできていないといけませんが、結局は収益を確保して稼げる農業になっていないと再生産できず、後継者も育たない。ビジネス面での支援が必要である。
- ・仙台市の農業政策について、消費地を抱えているということが一番の強みであり、消費者との交流が重要である。
- ・減少傾向にある農地を確保していくことが必要であり、市として防災の観点からも農地を保全する位置づけとしてはどうか。

### 萱場委員（仙台市農業振興協議会会長）

- ・東部地域と西部地域で違いが大きく、仙台市の農業を一つにまとめるのも大変。
- ・今は脱プラ肥料や石油化学製品を使わない農業用資材もあるので、環境にやさしい農業を掲げていってもよいのではないか。

### 佐藤委員（宮城実践組合組合長）

- ・西部地区ではイノシシ被害が続いており、ほ場を囲うようにするなど、柵をかける場所を考慮しながら対策しないと効果がない。
- ・特に西部地区では若手の農業者が少ないが、若手育成は20～30年計画で育成していかなければならず、定年退職した60歳前後の人を10年程度雇用することも考えてはどうか。
- ・学校給食における環境保全米提供の支援をお願いしたい。
- ・西部地区には園芸に取り組む後継者がいない。販路拡大の面で道の駅の設置も考えてほしい。

### 相澤委員（仙台市食育推進会議委員）

- ・子どもが食材の生産過程を実際に見ることができる場があるとよい。収穫体験や現場見学等、既に実施されているものでも、人気があつて参加できないこともあるので強化していただきたい。
- ・防災や再生可能エネルギー等の観点で、環境に関する記載を入れてほしい。

### 佐藤委員（KAMURIコミュニティプロジェクト副会長）

- ・農業者は生産で手一杯で、販売やSNSでのPRまで手が回っていない。自分たちの生産物がどのように加工されているかわからない、という声もある。
- ・交流イベント開催により、農業者と若い世代が交流する機会、農業系も若者の進路の選択肢となるような機会となっている。

### 緩鹿委員（宮城大学食産業学群准教授）

- ・魅力ある地域の形成が担い手の確保につながるといった、各施策が連動するような方針としてほしい。

- ・全国的に 70 歳以上の高齢者が多いが、60 代のうちに後継者探しや経営引継の準備を進めていくことが必要である。
- ・農業に貢献したいという企業と連携した農業経営も一つの方向性ではないか。

#### 事務局（経済局次長）

- ・緩鹿委員の企業との連携に関する発言に関しては、福祉団体等から農福連携のような形で相談が増えてきている。
- ・農業者数が減少している中、仙台市においてはどのように関係人口等の農業者以外との連携の取組みをしていくのがよいか、委員の皆様からご意見をいただければと思う。

#### 伊藤委員長（東京農業大学国際食料情報学部教授）

- ・東部と西部で特徴が異なる仙台市においてどのような農業を展開すべきかについて、本日の委員の意見の中では、市民と一緒に持続できるような農業を目指す、という方向性なのではないか。
- ・農業者以外の人々が農業生産に係るコストを理解し、買い支えるという関係を構築できると農業がやりやすくなり、就農者も増えてくると思う。そのような関係性を構築するには、5年の実施期間を超えて取り組む必要があるのではないか。
- ・兼業農家や定年帰農、外部人材導入等を促進しても、結局はコミュニティそのものが持続できなくなりつつある。東部西部それぞれにおいて集落組織を核としたコミュニティを目指し、世代交代や課題解決を図っていくとよいのではないか。

⇒以降質疑応答なし

#### 伊藤委員長（東京農業大学国際食料情報学部教授）

- ・本日の発言を事務局で整理し、次回の議案や素案作成を進めてよいか。

⇒全員了承

6. 閉 会